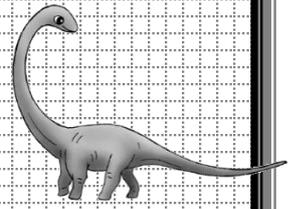


けんぱくものしりシート

ミズホクジラ



こちらは岩手県南部の奥州市前沢で見つかった、ミズホクジラの全身の骨格を復元した模型です。およそ500万年前（新生代新第三紀鮮新世）の地層（竜の口層）から発見されました。



クジラは、私たち人類と同じほ乳類の仲間。首の骨は同じく7個。

胸から腰、尾へとつながる背骨はとても数が多く、みな同じような形でしなやかな背骨を形づくっています。



前に長くのびた上下のあごの骨。特に下あごの骨は太くてがんにょうです。

前あしは胸ビレに変化。指の数は4本。

復元全長：約4m



いつ見つかったの？

ミズホクジラは、1954（昭和29）年3月に道路工事をしている時に見つかったのよ。水沢農学校や東北大学の先生のしどうのもと、発掘調査がおこなわれ、今は国立科学博物館でたいせつに保管されているわ。



発掘調査

1954（昭和29）年3月



1970年代後半になって、復元のための研究が進められ、すでに宮城県仙台市で耳の骨だけが発見され報告されていた、ミズホプテラ・センダイクスというクジラ化石と同じ種類だということがわかったの。そこからこのクジラは「ミズホクジラ」という名前前で呼ばれるようになったのよ。



ミズホクジラはどんなクジラなの？



ミズホクジラは、約500万年前に生きていた原始的なヒゲクジラの仲間で、クジラの中では小型だったのよ。残念ながらこの種の仲間は絶滅してしまったわ。そのため、ほぼ全身の骨格がそろっているミズホクジラの化石は、とても貴重なものなのよ。

ミズホクジラは、ヒゲクジラの仲間だから歯がなかったの。そのかわりに口の中に皮膚が変化したヒゲ板（クジラヒゲ）というものが、上あごにたくさん生えていたわ。えさを食べる時は、海水ごと口の中にふくんで、毛のようにになっているヒゲ板にひっかかったプランクトンや小さな魚などを食べて、海水はヒゲ板のすき間から外へ出すのよ。



ミズホクジラは、ほかの所からも見つかっているの？



そうですね。ミズホクジラは、となり町の平泉町や一関市、宮城県仙台市でも見つかっているのよ。それに奥州市前沢のミズホクジラの見つかったすぐ近くからは、マエサワクジラという別の種類のクジラも発見されているわ。当時は今の仙台湾あたりから、岩手県南地方まで海が入りこんでいたの。その海にはミズホクジラをはじめとして、さまざまな生物が生活していたことが、化石の発見によってわかっているのよ。



【約500万年前の古地理図】



ミズホクジラ

マエサワクジラ

【古仙台湾の古生態復元図】清水勝画
奥州市牛の博物館所蔵

引用・参考 財団法人岩手県文化振興事業団1988年『鯨と海獣の歴史を探る—海生哺乳類化石展図録—』他

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館

検索

HPにてバックナンバー公開中！

けんぱくものしりシート

『ミズホクジラ』

2024年1月発行 地質—No.28

■参考文献

- ・岩手県立博物館 1982年『ひとつの資料から 地質—19 ミズホクジラ』
- ・岩手県立博物館 1984年『岩手県内化石めぐり』
- ・財団法人岩手県文化振興事業団 1988年『岩手県立博物館だより No.37』
- ・財団法人岩手県文化振興事業団 1988年『昭和63年度第1回企画展 鯨と海獣の歴史を探る—海生哺乳類化石展図録—』
- ・岩手日報社 1995年『岩手県立博物館ガイド 岩手おもしろ再発見』
- ・岩手県立博物館 1998年『平成10年岩手県立博物館教育普及事業 郷土の自然のおいたちを探る シリーズ第35回地質観察会 前沢くじら発見の地とデボン紀の化石案内書』
- ・山形県立博物館 2000年『特別展 大海牛・大鯨展—海で進化する哺乳類』
- ・第2回北東北三県共同展実行委員会 2007年『北東北自然史博物館～大地と生きものふしぎ旅行～展示図録 第2回北東北三県共同展2007』
- ・株式会社学習研究社 2007年『ジュニア学研の図鑑 動物』
- ・株式会社小学館 2011年『小学館 こども大百科キッズペディア』